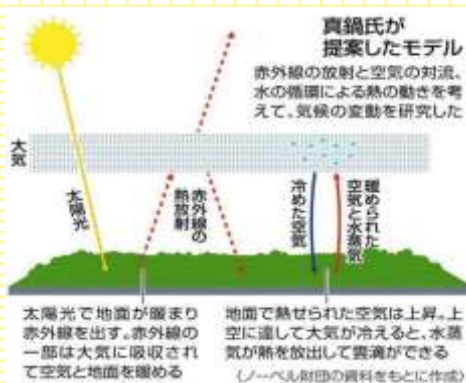


児童朝会 校長の話 10月11日

全校で集まって朝会を行うのは久しぶりですね。
大勢の人がいるのでおしゃべりはしないで、話す人
の方をしっかり見て話を聞きましょう。今の態度は
とっても立派です。



10月5日に日本人がノーベル物理学賞を受賞し
ましたね。真鍋淑郎さんです。ノーベル賞というのは、人類の発展や科学の進歩、地球に住
む私たちの生活を豊かにしたり幸せにしたりするために世界的に貢献した人に贈られます。
ですから日本人が受賞したということは本当に栄誉あることです。真鍋さんは現在90歳
です。90歳で現役の科学者ですからすごいですね。



どんな研究をしたかというと、地球は太陽の光によ
って地面が暖められます。それによって空気も暖めら
れます。また暖められた空気は空に上っていき、冷え
ると雲や雨ができます。また、海でも海水が太陽に暖
められて、暖められた空気が空に上っていったりまた
冷えて雲や雨ができたりします。その時の大気中や海

洋の熱の動きを計算で求められるようにしました。そして大気中と海洋の熱の動きを結び
付けて、それによって気候がどのように変化していくか予測するモデルを作りました。熱の
動きを計算することによって天気がどのように変わるか、晴れの日が続いて気温が上がる
とか雨が降り続いて大雨になるとかを予測できるようにしました。

現在、地球の気温が上昇して、異常気象が起きています。暑い日が続いて熱中症の危険が

あつたり大雨のために洪水が起きたり山火事が発生したり、世界中で起きています。今、地球全体で、発電所や工場でものを燃やしたり、自動車が排気ガスを出したり、様々な理由で二酸化炭素がたくさん大気中にたまっています。この二酸化炭素があると熱を放出しないで地球の気温がどんどん上がっていくのです。真鍋さんの研究は 50 年前に、二酸化炭素が増えると、地球の気温が上昇することを示していました。

真鍋さんは 60 年前にアメリカに渡ってこの研究を始めました。なぜアメリカに渡ったかというと、アメリカにはその当時、日本の 30 倍の計算ができるコンピュータがあったそうです。それで、たくさんの計算を必要としたので、アメリカで研究に取り組んだそうです。

そのころ、まさか 60 年後に地球温暖化によって異常気象が起き、自分の研究が役に立つなどとは思ひもなかったそうです。役に立つと思って研究したわけではなく、研究の原動力は「好奇心」だそ

こう き しん

好奇心

うです。好奇心とは「どうしてだろう?」「どうなっているのだろうか?」「おもしろいな、もっと追究してみよう」という気持ちです。そうやって長年ずっと楽しく研究を続けてきました。その結果、素晴らしい研究成果を生み出しました。

好奇心は皆さんも毎日の勉強や生活の中でもつことができますね。好奇心をもって取り組んで、皆さんも何か夢中になって追究することに出会えるといいなあと思います。